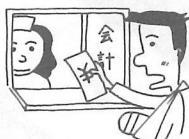


では、総医療費の三割強を占めています。

お年寄りのみなさんが、健康管理に关心を持たれるのは当然のことです。一般成人者と比べて受診回数が多いのも、いたしかたのないことですが、財政的見地からすれば、これもまた、医療費増高の一因であることは否めません。

## 総医療費

580,000千円

1人当たり 66,500円  
1件当たり 11,400円

## 件 数

51,100件

1人当たり 5.9件  
1日当たり 140件

## 保険税

164,000千円

1人当たり 18,800円  
1世帯当たり 63,000円

## 保険給付費

449,000千円

1人当たり 51,500円  
1件当たり 8,800円

## 五十五年度決算から

## 被保険者数

8,724人(2,603世帯)

全人口の61%



## 循環系疾患

最後に、どのような疾病が多い

## 一位を占める

以上、国保の現状みてまいりましたが、相互扶助の精神を基本とした、この医療保険制度は、今やすっかり社会に定着し、私たちの暮らしに欠かせぬ重要なものになつてゐることがわかります。

一方、運営面からみると、かなり厳しい時代を迎えていると言つては、その人を信用し、すべてをまわるのをえません。

一般的労働者を対象に、会社等

が行う健康保険など、年令構成の

若い他の制度に比べて、対象者が

圧倒的に多い老人医療の問題など、

制度間の負担のあり方をめぐつて

のかを、昨年の統計からみてみますと、一番多いのが循環系の疾患、次が呼吸系で、三位が神経および感覚器の疾患となっています。また金額の多いものでは、精神障害がトップです。

## 厳しい国保

## の今後

## ○被保険者五つの心得。

## お医者さんを信じましょう

家庭医といふものは、身近かにあって、一家の健康のことを何でも相談できるお医者さんのことです。

ふだんから、家族のからだの状況をよく知つて、一家の健康管理を充分してくれますので、きわめて大切な存在です。

## 診療時間内に診てもらおう

病気は、いつ起ころるかわからないものなので、緊急の場合はやむをえませんが、自分の都合で診療時間外に診てもらうのは、できる

死亡原因の上位を占める高血圧症、動脈硬化症、心臓病、糖尿病、ガンなどのいわゆる成人病は、自覚症状のないままに、潜在的に進行することが多くあります。したがつて、自覚症状が現われた時には、すでに手遅れになつていてることが少なくありません。早期発見、早期治療が理想的です。

## 心がけよう

この早期発見に役立つのが健診です。中年すぎたら、一年に一度はガン検診や、成人病の検査を受けましょう。

また、短期で少負担の「短期人間ドック」(本紙六月号掲載)の制度もございますので、ご利用をおすすめいたします。

ない大きな課題であります。

みなさんの深いご理解とご協力をいただきながら、この制度を健全に育てていきたいものです。

\*図の金額は端数整理しました。

くすりの乱用だけよしましよう。

## くすりの乱用